

水産海洋地域研究集会

第3回北海道水産海洋研究集会
—地域性ニシン資源の造成と管理—

日 時：2018年1月18日（木）13:30～17:00
場 所：かでの2.7 710 会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）
主 催：一般社団法人水産海洋学会
後 援：道総研 水産研究本部，水産教育・研究機構，北海道栽培漁業振興公社
コンピーナー：山口幹人（道総研稚内水試），馬場勝寿（道総研中央水試）黒川忠英（水産機構北水研），佐々木正義（道栽培公社）

総合司会：山口幹人（道総研稚内水試）
挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会長） 13:30～13:35
三宅博哉（道総研水産研究本部） 13:35～13:40
趣旨説明：山口幹人（道総研稚内水試） 13:40～13:50

座 長：馬場勝寿（道総研中央水試）

基調講演

小型浮魚類の加入量変動 13:50～14:30
渡邊良朗（東京大学）

話 題：

1. 北海道沿岸海域で産卵するニシンの mtDNA 情報による集団構造の検討 14:30～14:50
清水洋平（道総研中央水試）
2. 種苗生産技術の概要 14:50～15:10
市川 卓（水産機構北水研）
— 休 憩 — 15:10～15:25

座長：佐々木正義（道栽培公社）

3. 種苗生産・放流事業の概要（日本海海域） 15:25～15:45
柳澤三朗（道栽培公社）
4. 産卵場・仔稚魚期成育場としての沿岸域の利用様式 15:45～16:05
白藤徳夫（水産機構東北水研）
5. 石狩湾系ニシン増大の背景 — 未成魚保護の重要性 — 16:05～16:25
星野 昇（道総研中央水試）

総合討論：黒川忠英（水産機構北水研） 16:25～17:00

開催趣旨：ニシンは北海道の開拓を支えた魚種であり，1987年（明治30年）には春ニシン（北海道サハリン系群＝北海道からサハリン沿岸で広く産卵し大きな回遊をするグループ）を主体として100万トン近い漁獲を誇った．しかし春ニシンは20世紀半ばにはほぼ姿を消し，現在ではいくつかの地域性の系群（産卵場や分布が限定される小さなグループ）が漁獲されているのみである．

本シンポジウムでは，ニシン全体の資源生態学的な特性および資源変動特性を把握した上で，北海道の地域性ニシンの分布・資源構造を紹介する．そして，種苗の生産と放流，成育場保護や漁業管理といった，資源増大・造成に向けた種々の取り組み等の報告を通して，地域性ニシン資源の活用について考える．